

京都教育大学 FD ニュース

No. 82

2017年5月29日

京都教育大学 FD 委員会

本学におけるFD活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、平成29年2月21日に実施の平成28年度京阪奈三教育大学FD交流会について報告いたします。

平成28年度京阪奈三教育大学FD交流会の実施報告

平成28年度京阪奈三教育大学FD交流会が、京阪奈三教育大学双方向遠隔講義システムによって、平成29年2月21日（火）に本学F12講義室で開催されました。

日本学生支援機構の学生生活調査（平成26年度大学学部学生【昼間国立】）によれば、1週間の生活時間において「大学の授業の予習・復習など」に割いている時間は、「0時間」が20.5%、「1時間～5時間」が45.5%、「6時間～10時間」が19.3%といった結果でした。このような学生の自主学習不足の傾向は、本学の授業アンケートでも同様に読み取れます。

そこで、今回の交流会では「学生の授業外での学習を促すために」をテーマとして、その方策について研修しました。

講師は、本学の平成28年度の授業アンケートの結果から、「難しいと感じているにもかかわらず満足度が高く、授業外学習時間が多い」授業の担当教員であった黒田恭史教授、植山俊宏教授にお願いし、授業の事例報告をしていただきました。また、奈良教育大学の中山留美子准教授にも研修テーマに即した事例報告をしていただきました。そして、これらの事例報告を基にして意見交換を行いました。



研修の結果、「難しいと感じているにもかかわらず受講生の満足度が高く、授業外学習時間が多い授業」では、ハードルが高くハードな課題が準備されるものの、課題解決のための努力の仕方や努力の評価法が明確に説明され、努力すれば必ず報われる構造になっていることが分かりました。また、そのような授業を行うためには、教員側も授業準備や学生対応に関して相の努力を要することも分かりました。事例報告の骨子は、以下の通りです。

【事例報告1】京都教育大学 黒田恭史教授

1. 授業づくりの姿勢

(1) 方針

- ①学力を定着させるため、授業外学習を促す。
- ②脱落させずに、努力をさせる。
- ③スクール・リーダーの養成と連動させる。

(2) 学生の意識改革

- ①数年後には教師として評価される立場になることを意識づける。
- ②同僚から評価される立場になることを意識づける。
- ③10年後の自身の教師像を意識させる。

(3) 評価方法の工夫

- ①レポートは翌週返却。優れたレポートは全体紹介。
- ②クラス内ピラミッド構造を崩す。
- ③挙手・発表、各種講座出席で加点。

2. 授業内容

(1) 「中等数学科教育Ⅰ」の到達目標

- ①学習指導要領（数学科）の目標と内容の理解。
- ②中・高等学校数学と大学数学との内容関連の理解。
- ③現在の中・高校生の数学の学力実態の理解。

(2) 授業形態

テキストを用いた講義形式で、基礎知識の定着を図る。

(3) 学生のレポート

2週間に1回の提出で、1レポートあたりの平均枚数は9.3枚、授業外学習時間は平均11.3時間であった。

(4) レポートの評価基準

評価は以下の5段階で行い、評価は90分以内に行うのがモットーである。

- A: 章立てを行い総合的・体系的に記述している。
- B: 他の書物、インターネット等も含め記述している。
- C: 講義内容とテキスト内容を整理して記述している。
- D: 講義内容について一通り記述している。
- E: 十分な記述ができていない。

(5) 「中等数学科教育Ⅱ」の到達目標

- ①数学教育における創造性育成の教育的意義の理解。
- ②問題「解決」能力に加え、問題「発見」能力の獲得。
- ③講義内容を活かして、創造的な数学教育の内容を提案。

(6) 授業形態

演習形式で、折り紙や缶飲料のダイヤカットモデル等、様々な教材を用い、学生間の交流・教え合いによって新しい数学の発見を目指す。

3. 結語

子どもが家の前でサッカーボールを無心にける姿にこそ、学び続ける教員を育成する教員養成のモデルがある。



【事例報告2】京都教育大学 植山俊宏教授

1. 授業科目の概要

「中等国語科教育Ⅰ」の目的と方針

- ・ 中学、高校の代表教材を自分の中に取り込んで考察する。
- ・ 教科書教材の作成方法を分析・考察する。
- ・ 自主・自力で教材を作成する。
- ・ 作成した教材についてプレゼンテーションする。
- ・ 徹底的に自分で書き写す。

2. 授業内容・方法の概要

「竹取物語」、「こころ」、「伊勢物語」、「トロッコ」を教材として

- ・ 教科書教材の比較・検討のグループ討議。
- ・ グループによる通読の輪読。
- ・ 比較・検討結果のレポート作成
- ・ 教材適性評価レポートの作成（「伊勢物語」、「トロッコ」）。
- ・ 自主単元作成レポート作成
- ・ 自主単元作成レポートグループ別討議
- ・ 自主単元作成レポートポスターセッション。
- ・ 受講生相互評価。

3. 学生の学習と達成度

（1）授業外学習の課題と達成条件

①レポート作成指示

- ・ 前年度の模範例を提示。
- ・ 模範例と同等以上が達成条件。
- ・ ネット上の資料利用に関する指示。

②レポートのチェック

- ・ 量、質をチェックし、未達成分はやり直しを指示。
- ・ 盗作・盗用について厳しく注意・指導。

（2）授業外学習の所要時間

- ・ 作成期間は2～3週間。
- ・ 1レポート平均5～15時間。

4. 履修後の聞き取り調査結果（受講生の感想）

負担は大きかったが、学習成果を実感でき、教材研究力に自信がついた。



【事例報告3】奈良教育大学 中山留美子准教授

1. 授業の概要

「生徒指導（進路指導を含む）・教育相談Ⅰ（初等）」

到達目標は、以下の示す生徒指導の「概要」「態度」「スキル」の獲得であり、「生徒指導提要」を全体的に理解させることである。

- ・「概念」→専門的概念を獲得し、現場の具体的事象との有機的なつながりを理解する。
- ・「態度」→他者理解・共感、協働、理論に基づく現象理解。
- ・「スキル」→カウンセリングスキル、協働・ディスカッションスキル。

2. めざす学びの過程

予習を核として授業が展開することであるが、実態としては、予習・グループ活動がともに形骸化してしまう。この原因として以下の2項が挙げられる。

- (1) 関与の低さ（実体験の乏しさ、テーマに対する関心の低さ）に起因する動機付けの問題
- (2) 課題への取り組み方（スキル）の問題

3. 授業改善のポイント

- (1) 具体性を持った「事例」の導入。

自分事として動機づけられる課題状況を作り、授業の場で教育現場での出来事を疑似体験させる。

- (2) 課題への取り組み方を指導する（スキル援助）。

- (3) 対人関係形成支援により、学生同士が取り組みを促進し合えるようにする。

4. 1事例にかかる学びの流れと授業外学習の位置づけ

学生は事例について、まず自分なりに考え、メンバーと考えを共有し、考えを整理した上で関連する知識を予習し、教員から理解のための補足や他の理論的説明を受け、改めて理解を共有・整理する、という流れとなる。以下の①～④までが「自分事として考え、関心を持つ過程」で、①・②が授業、③・④が授業外学習時間である。また、⑤・⑥が「理論・知識獲得の過程」、⑦・⑧が「実質的な議論の実現・知識の獲得の過程」であり、⑤・⑥・⑦は授業、⑧が授業外学習時間となる。

①事例検討（個人思考1回目）→②ディスカッション→③事例検討（個人思考2回目）→④予習→⑤予習の共有→⑥講義→⑦ディスカッション→⑧事例検討（個人思考3回目）

5. 学生達の課題への認識の変化（「半期ふり返り課題」からの1例の紹介）

「私の中で一番大きな変化は、予習・復習課題への取り組み方だ。初めは適当にこなしていて、議論の際にもたいしたことが言えず、得るものは少なかった。先生に指摘をいただいて、課題への取り組みの姿勢を変えたことで授業の受け方も変わってきた。自分の考えをまとめたうえで話を聞くと、間違っていた点や正しかった点、考え方の相違点など気づくことも増えた。また、他人がどのように考えたのかということにも興味が出てきた。このことは、そのまま教育現場でも通用するのではないかと感じたので、将来自分のような生徒と出会ったときには、自分の体験をもとに、自分の考えを持つこと、それを共有すること、他人の考えを知ることの大切さを考えてもらえるようにしたい。」

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田（委員長）、藪根副委員長、山口、神代、佐藤（美）
（事務担当：富家、山本、鈴木）